

## 平成 29 年度 第 2 回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日 時> 平成 29 年 9 月 11 日 (月) 10:00~12:00

<場 所> 宇治市役所 8 階 大会議室

<出席者> (委員: 21 人出席/23 人中)

安藤会長、迫副会長、大西委員、岡本委員、小野委員、後藤委員、小林委員、篠原委員、谷安委員、松村委員、吉井委員、稲吉委員、上西委員、岸委員、北川委員、堀野委員、弓指委員、杉本委員、松井(明)委員、松井(敏)委員、宮崎委員

(事務局: 24 人)

教育部 岸本教育部長、伊賀教育部副部長、瀬野教育支援センター長、藤原教育部参事、縄手教育総務課長、富治林学校教育課長、金久一貫教育課長、福山教育支援課長

福祉子ども部 星川福祉子ども部長、澤田福祉子ども部副部長兼地域福祉課長、上道保育支援課長、田中保健推進課長、寺村障害福祉課長、北尾子ども福祉課長、畑生活支援課副課長、馬場保育支援課副課長、雲丹亀子ども福祉課副課長、平保健推進課主幹、山森子ども福祉課主幹、野口保育支援課計画係長、平山保育支援課保育支援係長、岡部子ども福祉課子育て企画係長、水野子ども福祉課子育て企画係主任、西村子ども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 1 人

<会議内容>

### 1 開会

【会 長】定刻になりましたので、会議を開会します。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

- ・事務局より、会議の成立確認報告及び配付資料の確認

### 2 議事

#### (1) 宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果について

- ・事務局より、資料 1「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書」に基づき説明が行われた。

【委 員】今回のニーズ調査の結果について、事務局としては、どのように受け止めておられるのかと

ということと、この結果を宇治市の今後のビジョンなどにどのようにつなげていくのか、お聞きしたいと思います。また、資料1の13ページ、問8「子どもの障害」については、回答数が少なかったですが、回答された方の困り感などは、しっかり汲み取っていただきたいと思っています。

【事務局】 今回の調査結果の全体的な印象ですが、前回調査に比べて、現在就労されている方や、今後働きたいと考えている母親が増えており、保育所等の待機児童が発生している現状からも、保育に対するニーズが高くなってきていると受け止めています。また、子育てのことで、身近に悩みや不安を相談できない方は、子育てに負担を感じているという結果も表れており、これまでから取り組んでいます。身近なところで相談できる場所・環境の充実が求められていると感じています。悩みや不安の理由としては、教育費などの経済的な負担に関するものが多く、今後の施策に生かしていきたいと考えています。子どもにどのような障害があるかという設問への回答数は少なかったですが、それぞれに異なる障害があると思いますし、各家庭で感じておられる困り感も様々であると思いますので、日々の業務の中で個々の状況をしっかり把握し、対応していきたいと思っています。今後については、今回の調査結果を一つの指標としながら、自由意見の内容なども含めて担当課と共有し、それぞれの施策の充実に反映させていきたいと考えています。

【委員】 回収率が約半分ということでしたが、仮に100%回収できた場合、結果の傾向は変わらないのでしょうか。

【事務局】 市がこれまで実施した他の調査と比較しますと、比較的高い回収率でもあり、今回の回収率は、統計データとして信頼度は高いと考えています。しかしながら、回答をいただけなかった方の声をどのように吸い上げていくのかは、今後の課題と考えています。

【委員】 資料1の79ページ、自由記述の中の意見として、「保育所の施設、定員を増やして欲しい」という意見が多くみられますが、この意見に地域偏在はありますか。また、子どもの年齢によってもニーズは違うのでしょうか。

【事務局】 自由意見を記入された方の地域属性はわかりませんが、実際の保育所等の待機児童の分布には地域偏在があることから、恐らく自由意見を記入された方のお住まいの地域によっては、ご意見の偏在はあることが推測されます。また、子どもの年齢による保育ニーズの違いですが、24ページの「望ましい子育て支援施策」の年齢別クロス集計からもわかりますように、幼児よりも乳児のほうが、高いニーズがあることが表れています。

【委員】 資料1の10ページ、問7について、親の就労状況別のクロス集計はありますか。また、幼稚園や保育所などに通うことで、保育士や幼稚園の先生にも相談することができ、親の負担が軽減されると思うのですが、こうした利用施設別のクロス集計分析もあるのでしょうか。

【事務局】今はクロス集計としてのデータはありませんが、可能であれば、改めてご指摘の区分でクロス集計をおこない、次回の会議までにお示ししたいと思います。

【委員】全国的に、保育の現場では保育者が足りない状況があると聞きます。保育士の数だけを増やすのではなく、個々の子どもの発達が促されるように、質の部分も含めて、総合的に考えていただけたらと思います。

【委員】京都府内の保育所においては、第三者評価を受けている率が全国で2位となっており、外部からの目線で評価を受け、日々保育の質を向上させていくということを念頭に置きながら運営しています。

## (2) 平成28年度における「宇治市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況等について

・事務局より、資料2「平成28年度「宇治市子ども・子育て支援事業計画」の内部評価結果及びニーズ調査結果に基づく今後の「量の見込み」について」、資料3「平成28年度「宇治市子ども・子育て支援事業計画」 具体的政策評価シート」に基づき説明が行われた。

【委員】制度の主旨に合致しており、見込み以上にニーズがある部分については、数字を超えていても認めてもらえるような施策展開・評価をお願いしたいと思います。

## (3) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について

・事務局より、資料4「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について」に基づき説明が行われた。

## 3 意見交換（グループワーク）

・事務局より、意見交換の進め方について説明が行われた後、3つのグループに分かれて意見交換が行われた。

## 4 その他

・事務局より、次回会議の日程調整について説明が行われた。

## 5 閉会